

海外研修レポート

人間文化学部 国際文化学科

T. M.

今回の海外研修プログラムは本当に充実しており、ハワイ大学での授業はもちろんのこと、自由時間も有効に過ごせました。こんな素敵な機会を与えていただき、心から感謝しています。

博物館やチャイナタウン、水族館、動物園、ハナウマベイ見学、ダイヤモンドヘッド登山など活動はさまざまでしたが、日本から持ってきたガイドブックや現地で購入した地図を片手に未踏の地で目的地を目指すのはとても楽しく、また勉強になりました。道を尋ねるのも、初めのうちは緊張したものです。机の上で紙になら、ある程度さらさらと正しい英文を書けるのですが、いざ外国ですれ違う人々に声をかけ質問するのは勇気のいることでした。しかしハワイ滞在2週目にもなると、ガイドブックを見るより人に聞いたほうが早いといった感覚で気軽に道を尋ねられるようになりました。これは私にとって大きな進歩です。母国語以外の言語を話そうとすると、どうしても完璧を意識して萎縮してしまいがちですが、私たちが母国語つまり日本語を話しているとき常に文法や言い回しが正しいかというところではないし、日常会話の中で多少間違っただとしても特に気になりません。そう考えると、そんなに構えて英語を話さなくても大丈夫だと思えるようになり、実際十分コミュニケーションが図れたので気楽に過ごせるようになりました。

今回の研修で一番印象に残っているのは、自分たちの文化を誇り、ハワイの気候や自然を愛し、その素晴らしさについて積極的に紹介してくれた人々の姿勢です。授業の一環でフラダンスを習った際、先生は信条やお祈りの仕方を説明してくださり、実際にやって見せてくださいました。深みのある歌声で私は鳥肌が立ち、なぜだか分かりませんが涙が頬を伝いました。これが本当の意味での異文化体験なのではないでしょうか。頭ではなく直接心に異文化が浸透し、感動する。こんな体験をしたのは初めてでした。またある日、海岸を散歩していると、お婆さんが「どう？ハワイの海は綺麗でしょ？」とキラキラ目を輝かせながら声をかけてくださったり、ウクレレを披露してくださったりもしました。雲の少ない青い空が広がる朝には「こんな空日本ではめったに見られないだろう」と自慢されるなど、人々は今自分の生きている環境に満足していることがはっきりとわかりました。我らが日本だってハワイの青空や青い海に負けない“四季”という素晴らしいものを持っています。ですが果たして何人がそれを誇り、外国人に伝えようとするでしょうか。日本人は外国に憧れを抱きやすく、自分たちも素晴らしいものを持っているという自覚が不足しがちのように思います。私は常に受け身でいるのではなく、積極的に母国を語れる人になりたいです。

最後に留学を考えていらっしゃる方へのアドバイスですが、事前学習に力をいれていた

だきたいという点です。訪れたい場所の歴史や情報が少しでも予備知識としてあれば、実際行った時の感動や印象の残り方は、何も調べずただ見に行った時と比べると大きく違って来るはずです。それから“日本”について一度よく考えてから出国していただきたいです。日本ってどんな国？いいところは？固有文化は？自分なりの答えを持って、是非それを伝えてください。紹介したいもの現物を持参する、困難であれば写真を用意するのも一つの手段かもしれません。